

中海浚渫窪地に見られるイベント堆積物とその起源

Inferred origin of event sediments observed in dredged depression areas in Lake Nakaumi, Japan

根上 裕成^{1*}, 一宮 大和¹, 井内 美郎¹, 宮地 良典²

Hiroshige Negami^{1*}, Hirokazu Ichimiya¹, Yoshio Inouchi¹, Yoshinori MIYACHI²

¹早稲田大学人間科学部, ²産総研

¹Human Sciences, Waseda Univ., ²AIST

日本海に面し、島根県と鳥取県にまたがる中海は、日本で5番目に大きい湖である。中海では1968年から埋め立てに伴う本格的な浚渫工事が開始された。浚渫窪地は周辺の湖底より3メートルから多いところでは15メートル近く掘り下げられ、そこには黒色の、いわゆる「ヘドロ」が30センチメートルから50センチメートルにわたって堆積していると言われている。先行研究によれば、この窪地内に堆積した約40年分のヘドロ層に比較的粒度の粗い「イベント堆積物」を含む特異的な層が確認されている。本研究では、このヘドロ層に記録されたイベント堆積物の起源を明らかにするために、80?90センチメートルの柱状試料を採取した。そしてイベント堆積物の年代を重量堆積速度により推定し、粒度分析結果や見かけ密度のピークと、調査域周辺の鳥取県米子市・島根県松江市・島根県伯太町（現安来市）の降水量データのピークと照らし合わせた。また実際に記録された大雨や洪水の記録年表とも比較を行った。その結果、特に米子市のものと多くの対応が見られた。よって浚渫窪地に堆積したヘドロ層には、大雨や洪水などの災害によって陸起源の懸濁物質が流入して堆積し、イベント堆積物として記録された可能性があり、またそのイベント堆積物の起源は米子方面からのものである可能性が高いということが明らかになった。

キーワード:中海,浚渫,湖底堆積物,降雨,洪水

Keywords: Lake Nakaumi, dredging, lake sediment, precipitation, flood